

第3章 市民意識調査

1) 調査概要

- ◆母集団：宮古島市民（住民基本台帳による無作為抽出）
- ◆調査実施時期：2017年9～10月
- ◆配布数：2000（不達返送：26）
- ◆調査方法：郵送配布・郵送回収
- ◆回収数：480 ※回収率24.3%

2) 集計分析

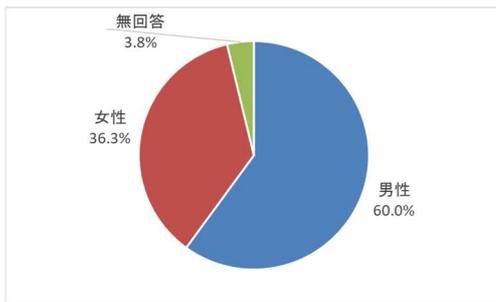
①アンケート回答者属性

性別では男性の比率が6割と多い傾向がみられ、年齢では60歳以上が過半数を占めています。クロス分析からも「60歳以上の男性」の比率が高いが、子育て世代の30代40代は全体の1/4と比較的少ないことが分かります。

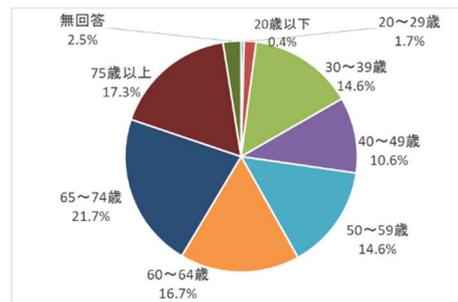
職業は、年齢構成を反映して「無職」が最も多いです。クロス分析で職業と年齢の関係を見ると、30代・40代は会社員や公務員が多く、60代以上は無職や農林漁業が多いことが分かります。

同居する家族構成は、「単身」と「夫婦のみ」が過半数を占めるなど、1～2人暮らしの世帯が多いです。また居住地域は平良地域が2/3と群を抜いて多いです。

F1：性別



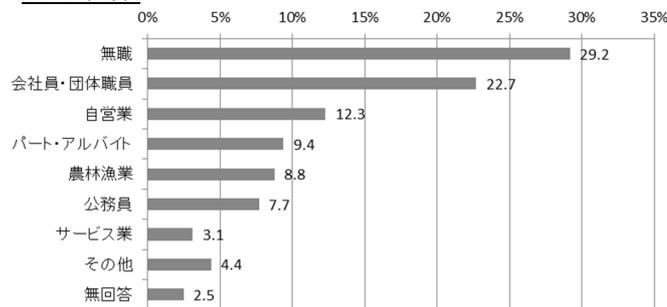
F2：年齢



[性別×年齢]

	総数	20歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~74歳	75歳以上	無回答
総数	480	2	8	70	51	70	80	104	83	12
男性	288	1	4	38	31	45	56	73	38	2
女性	174	0	4	31	20	25	24	30	40	0
無回答	18	1	0	1	0	0	0	1	5	10

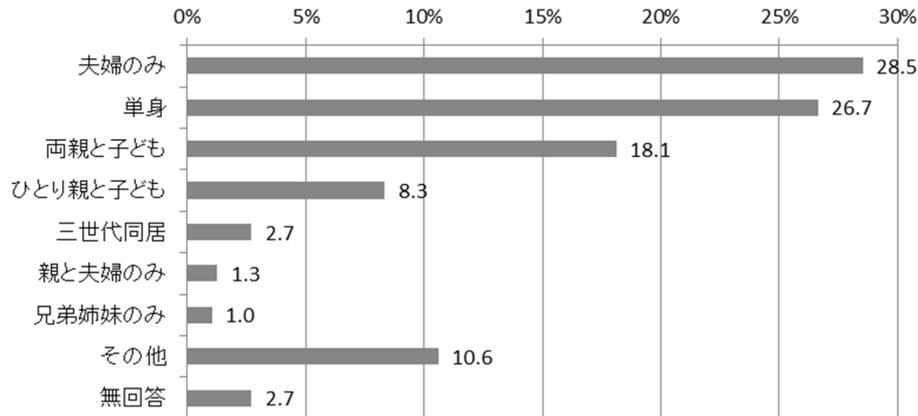
F3：職業



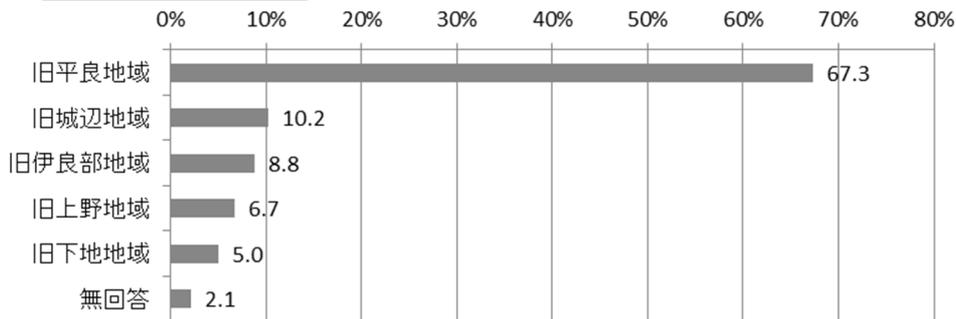
[職業×年齢]

	総数	20歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~74歳	75歳以上	無回答
総数	480	2	8	70	51	70	80	104	83	12
無職	140	0	0	2	1	6	14	54	62	1
会社員・団体職員	109	0	3	41	24	24	11	4	1	1
自営業	59	1	1	3	5	14	18	12	5	0
パート・アルバイト	45	1	0	7	8	8	11	8	2	0
農林漁業	42	0	0	0	1	4	11	16	10	0
公務員	37	0	2	14	8	9	4	0	0	0
サービス業	15	0	1	2	3	4	4	1	0	0
その他	21	0	1	1	1	1	6	8	3	0
無回答	12	0	0	0	0	0	1	1	0	10

F4：同居する家族構成



F5：現在の居住地区



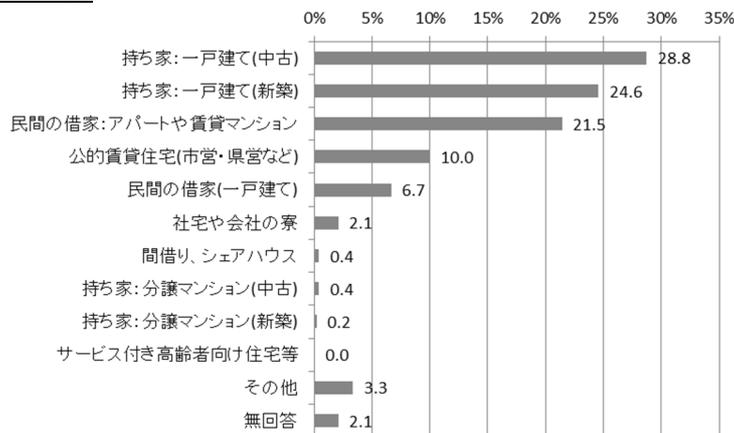
②現在の住まいについて

持ち家一戸建て（新築・中古）が過半数（53%）を占め、公営住宅は10%でした。年齢とのクロス分析を見ると、60代以上で「持ち家：一戸建て」が多く、30代で「民間の借家」「公的賃貸住宅」が多いことが分かります。

住宅の広さは「50～100㎡」が最も多く（44%）、居住年数は「30年以上」、「5年未満」、「5年～10年」、「10年～20年」がそれぞれ2割強で均衡しています。クロス分析から、30年以上居住している人は「持ち家：一戸建て(中古)」が多く、5年未満は「民間の借家」が多いこと、また、公的賃貸住宅は「5年以上10年未満」が多いことが分かります。

宮古島市では、昭和30～40年代に巨大台風が連続して襲来し、茅葺や木造の建物が大きな被害を受けました。これを契機にブロック造・コンクリート造の建物が多く新築されましたが、30年以上の居住者に一戸建て住宅が多いのは、この時期に建築され建て替え期を迎えている古い住宅であると考えられます。一方、公的賃貸住宅に居住しているのは、30代など比較的若い世代で、居住年数も5年未満と短い傾向がみられます。

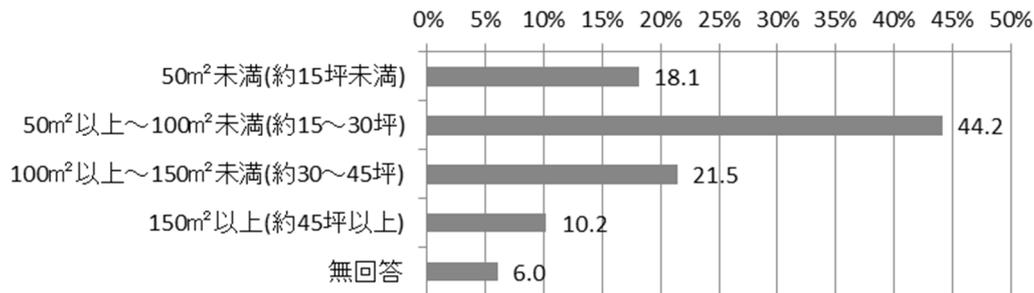
問1-①：所有関係と建て方



〔年齢×現在の居住形態〕

	総数	20歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
総数	480	2	8	70	51	70	80	104	83	12
持ち家：一戸建て(中古)	138	1	0	8	5	15	37	33	34	5
持ち家：一戸建て(新築)	118	1	0	7	10	17	20	38	23	2
民間の借家：アパートや賃貸マンション	103	0	6	31	16	17	10	15	6	2
公的賃貸住宅(市営・県営など)	48	0	1	11	9	7	5	7	7	1
民間の借家(一戸建て)	32	0	1	6	4	6	2	7	5	1
社宅や会社の寮	10	0	0	2	4	2	1	0	1	0
間借り、シェアハウス	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0
持ち家：分譲マンション(中古)	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0
持ち家：分譲マンション(新築)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
サービス付き高齢者向け住宅等										
その他	16	0	0	4	3	3	3	1	1	1
無回答	10	0	0	0	0	2	1	3	4	0

問 1-②：住宅の広さ



問 1-③：入居年数



〔居住年数×現在の居住形態〕

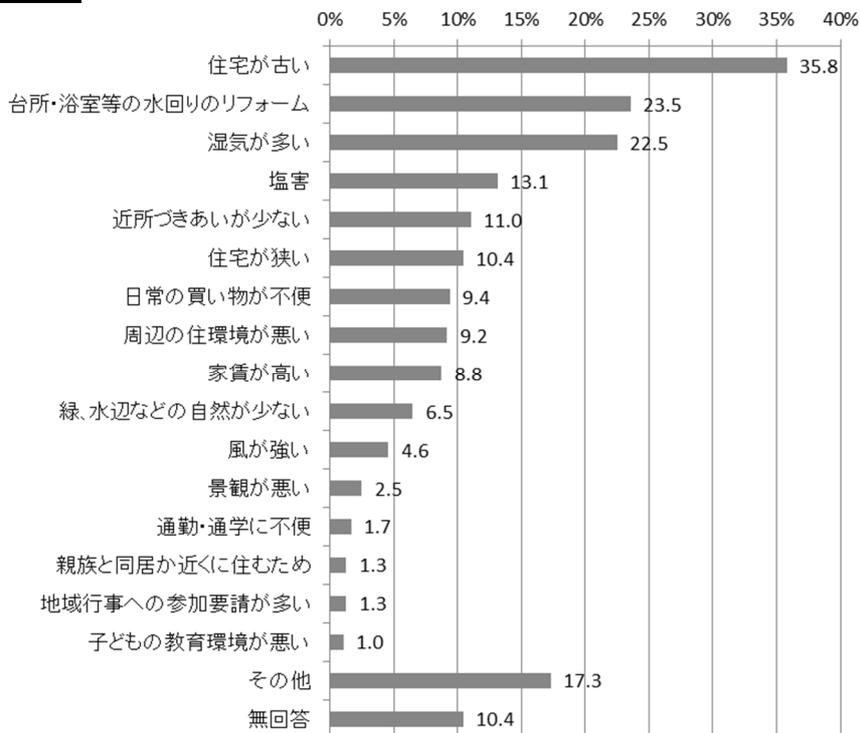
	総数	5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上	無回答
総数	480	112	101	98	54	106	9
持ち家：一戸建て(中古)	138	14	23	22	17	61	1
持ち家：一戸建て(新築)	118	18	21	28	18	32	1
民間の借家：アパートや賃貸マンション	103	50	19	27	6	1	0
公的賃貸住宅(市営・県営など)	48	6	24	8	5	3	2
民間の借家(一戸建て)	32	12	8	8	3	1	0
社宅や会社の寮	10	7	0	1	2	0	0
間借り、シェアハウス	2	0	2	0	0	0	0
持ち家：分譲マンション(中古)	2	0	0	2	0	0	0
持ち家：分譲マンション(新築)	1	0	0	0	1	0	0
サービス付き高齢者向け住宅等							
その他	16	4	3	2	2	5	0
無回答	10	1	1	0	0	3	5

③住宅や周辺環境の評価について

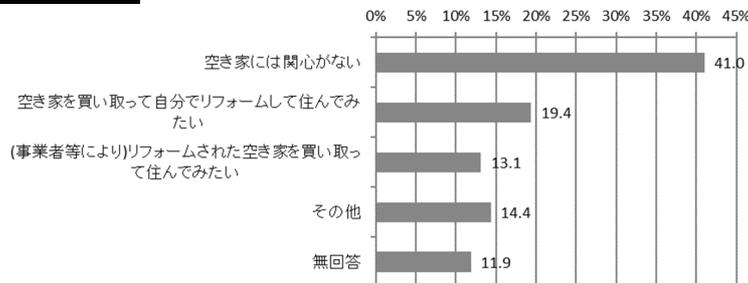
現在の住まいや周辺環境についての回答では、「住宅が古い」ことや、水回りの「湿気が多い」ことに困っていることが伺えます。また、空き家への関心は比較的低いことが分かりました。（「空き家には関心がない」41%）。空き家の活用意向について年齢と住宅の所有関係と建て方とのクロス分析からは、「民間の借家」と「公的賃貸住宅」に居住している「30代」など比較的若い人が空き家利用に高い関心を示していることが分かります。空き家の活用の施策推進に際しては、公的賃貸や民間の借家に住む30代など若い層をターゲットとすることが有効であると思われれます。

建て替えやリフォーム工事に関しては「実施した」との回答が総じて低く、最も多い「台所・浴室等の水回りのリフォーム」でも15%でした。実施の際に困ったことは「資金面で問題がある」（28%）と「加齢などにより実施する体力がない」（15%）の回答が多かった。これらの結果からは、地域特有の湿気の多さ、建物の古さからくる水回りのリフォームへのニーズが強く読み取ることができます。それに対し、リフォームなどは資金面の問題や居住者の高齢化などが主な要因で進んでいません。

問2：困っていること



問3：空き家への居住への考え



〔年齢×空き家への関心〕

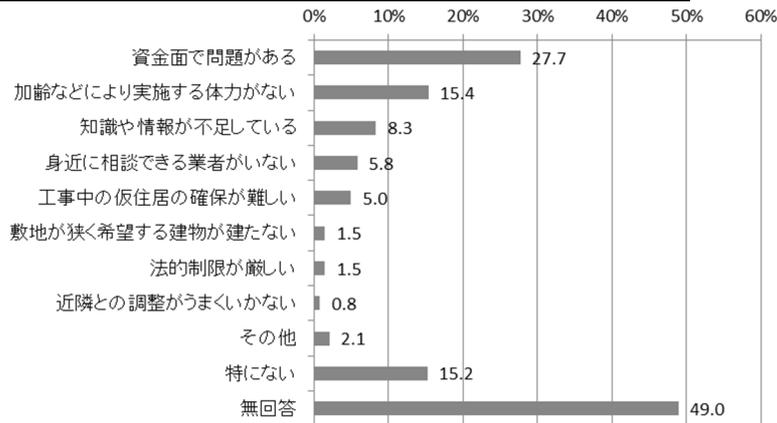
	総数	20歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
総数	480	2	8	70	51	70	80	104	83	12
空き家には関心がない	197	1	4	15	17	27	37	47	44	5
空き家を買って自分でリフォームして住んでみたい	93	0	2	24	12	25	15	13	2	0
(事業者等により)リフォームされた空き家を買って住んでみたい	63	0	2	23	14	3	10	6	2	3
その他	69	1	0	7	4	10	8	23	15	1
無回答	57	0	0	1	3	5	10	15	20	3

問4：建て替えやリフォーム工事の実施経験および予定

※問1-①で借家等(選択肢1.～10.)と回答した人以外の287が対象

	実施した		実施予定		実施も予定もない		無回答	総数	
台所・浴室等の水回りのリフォーム	43	15.0%	35	12.2%	72	25.1%	132	287	100.0%
内装の変更(壁紙・床の張り替え等)	36	12.5%	34	11.8%			141		
高齢化に対応したリフォーム	19	6.6%	22	7.7%			169		
外断熱など断熱性向上のためのリフォーム	16	5.6%	25	8.7%			170		
家族構成の変化に合わせた増築・間取りの変更	15	5.2%	17	5.9%			179		
建て替えや改修工事	15	5.2%	9	3.1%			186		
太陽発電等自然エネルギー導入のためのリフォーム	9	3.1%	9	3.1%			192		
耐震性向上のためのリフォーム	3	1.0%	12	4.2%			195		
その他	8	2.8%	3	1.0%			200		

問5：建て替えやリフォームの実施に際して困ったこと(持ち家のみ)



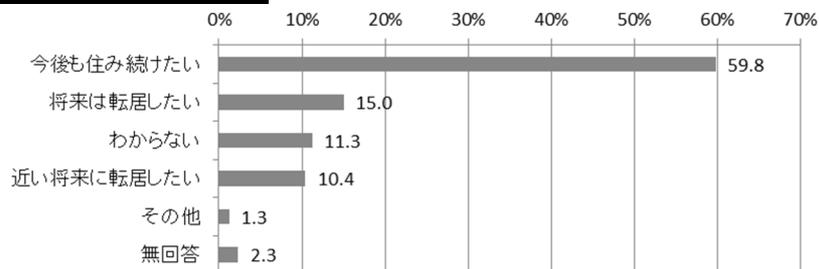
④今後の住まいについて

今後も「現在の住まいに住み続けたい」と答えた人は6割であり、年齢とのクロス分析結果からは60代の人が多いことが分かりました。一方、「(近い将来) 転居したい」と答えた人は30代に多かった。

転居を希望する理由は、「住宅が古い」が一番多く、次いで「住宅が狭い」「湿気、水回り」などが続いています。また、希望する転居先は圧倒的に旧平良地域が多いことが分かりました(57%)。引っ越し先に希望するのは「持ち家：一戸建て(新築)」が25%と最も多く、中古と合わせると持ち家一戸建てで35%を占めます。

3. 今後の住まいについて

問6：現在の住まいに住み続けたいか

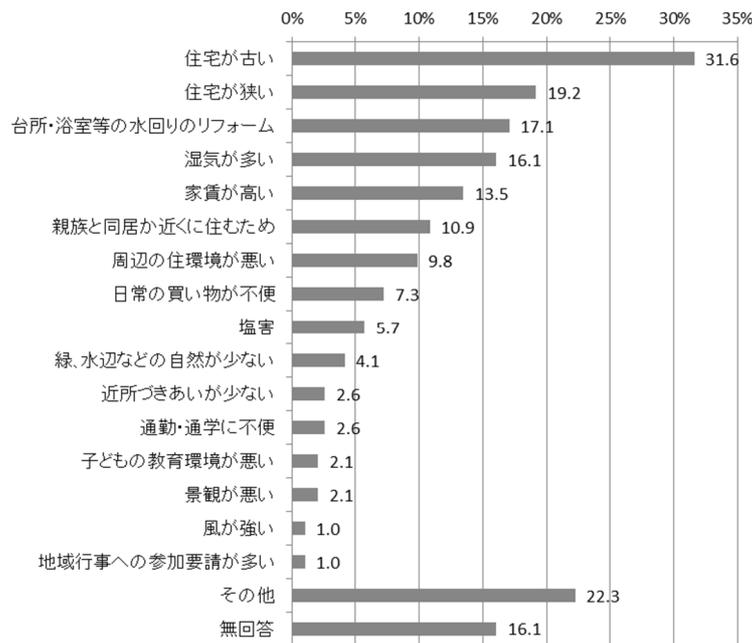


[年齢×居住意向]

	総数	20歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
総数	480	2	8	70	51	70	80	104	83	12
今後も住み続けたい	287	2	1	22	18	43	51	78	65	7
将来は転居したい	72	0	4	18	14	9	10	11	5	1
近い将来に転居したい	50	0	2	20	8	7	5	3	3	2
わからない	54	0	0	9	7	10	11	10	5	2
その他	6	0	1	1	2	0	1	0	1	0
無回答	11	0	0	0	2	1	2	2	4	0

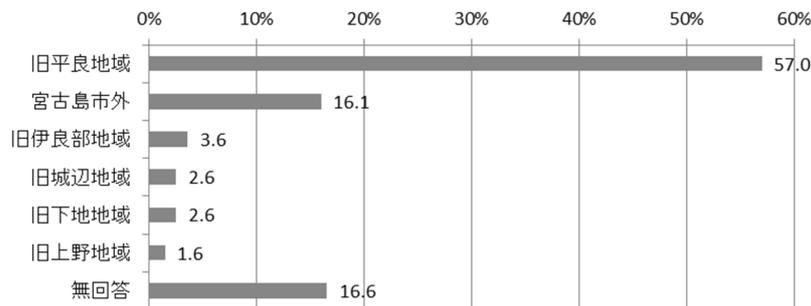
問7：転居を希望する理由

※問6で「1. 今後も住み続けたい」と回答した人以外 193 が対象



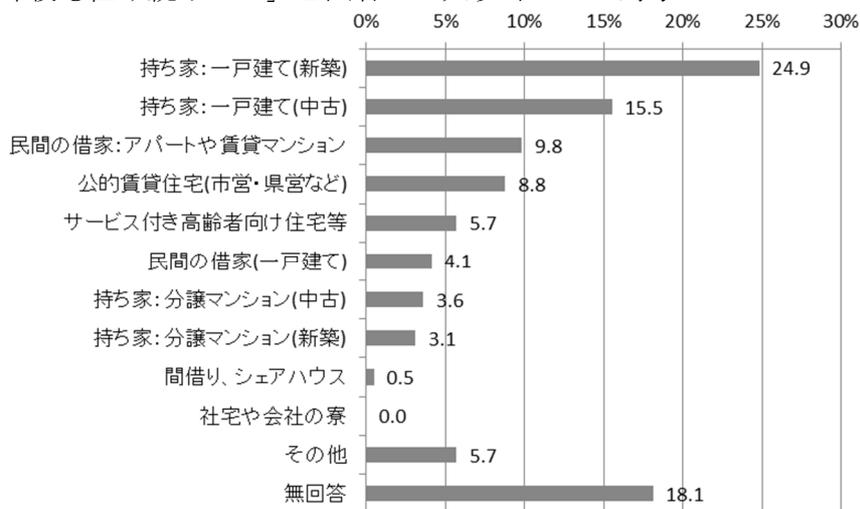
問8：希望する転居先

※問6で「1. 今後も住み続けたい」と回答した人以外 193 が対象



問9：引っ越し先に希望する住宅タイプ

※問6で「1. 今後も住み続けたい」と回答した人以外 193 が対象



⑤宮古島市の住宅政策について

満足している取組みは総じて1桁台の回答と低い傾向にあります。その中では「省エネルギーや環境に配慮した住宅政策」が9%でトップでした。市のエコアイランドというコンセプトが浸透していることも要因と考えられます。

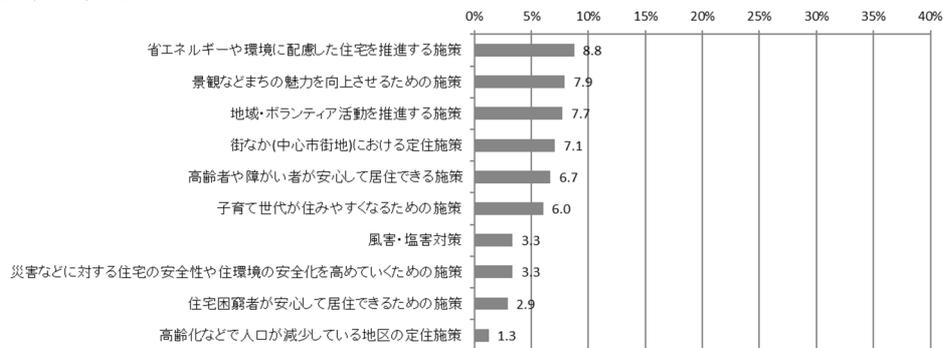
反対に不十分だと思う取組み並びに特に力を入れる取組みとして、ともにトップに挙げられているのは「高齢者や障がい者が安心して居住できる施策」でした。また、住民主体で取り組むことが望まれる分野でも、「高齢者・障がい者・子育て世帯に配慮した支えあいのまちづくり」が54%となっており、支えあいによる弱者に配慮したまちづくりへの要望が高い傾向にあります。

住んでいて感じるまちの魅力は何かという設問には、49%の回答者が「のどかで住みやすい」ことをあげています。2番目には「自然環境が豊か」と続き44%と多いです。3番目にあげられている「自然災害が少ない」(32%)という回答は、台風準備に良い意味で慣れており、災害に至らないという地域性が表れていると考えられます。

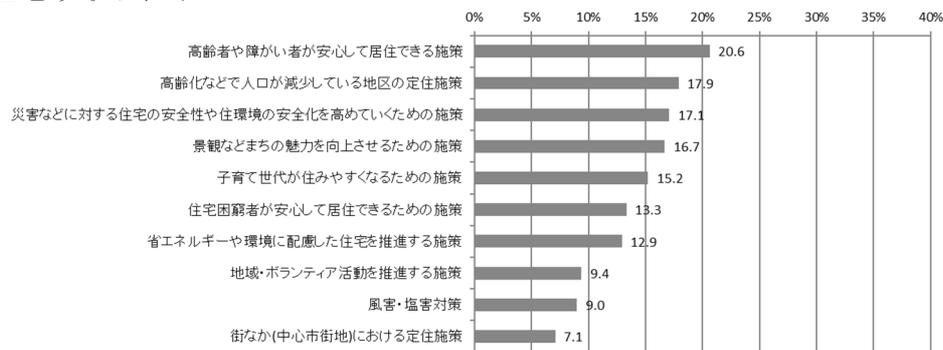
全体的には、自然が豊かで住みやすいと感じているが、今後の市の住宅政策に関しては、高齢者・障がい者などの社会弱者への配慮と、子育て世代への支援が必要という考えを読み取ることができます。

問10：住宅・住環境に関する行政の取組みについて

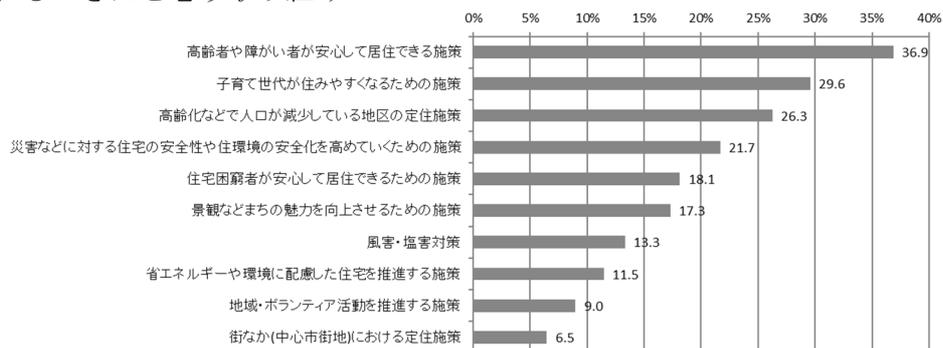
＜満足している取組み＞



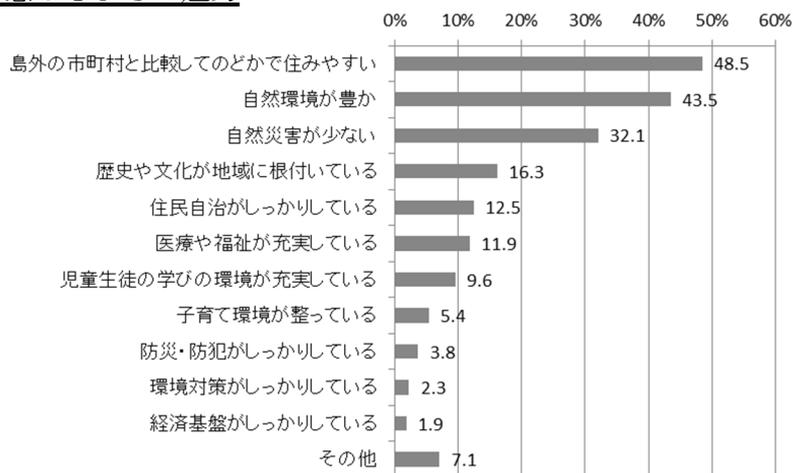
＜不十分だと思う取組み＞



＜特に力を入れるべきだと思う取組み＞



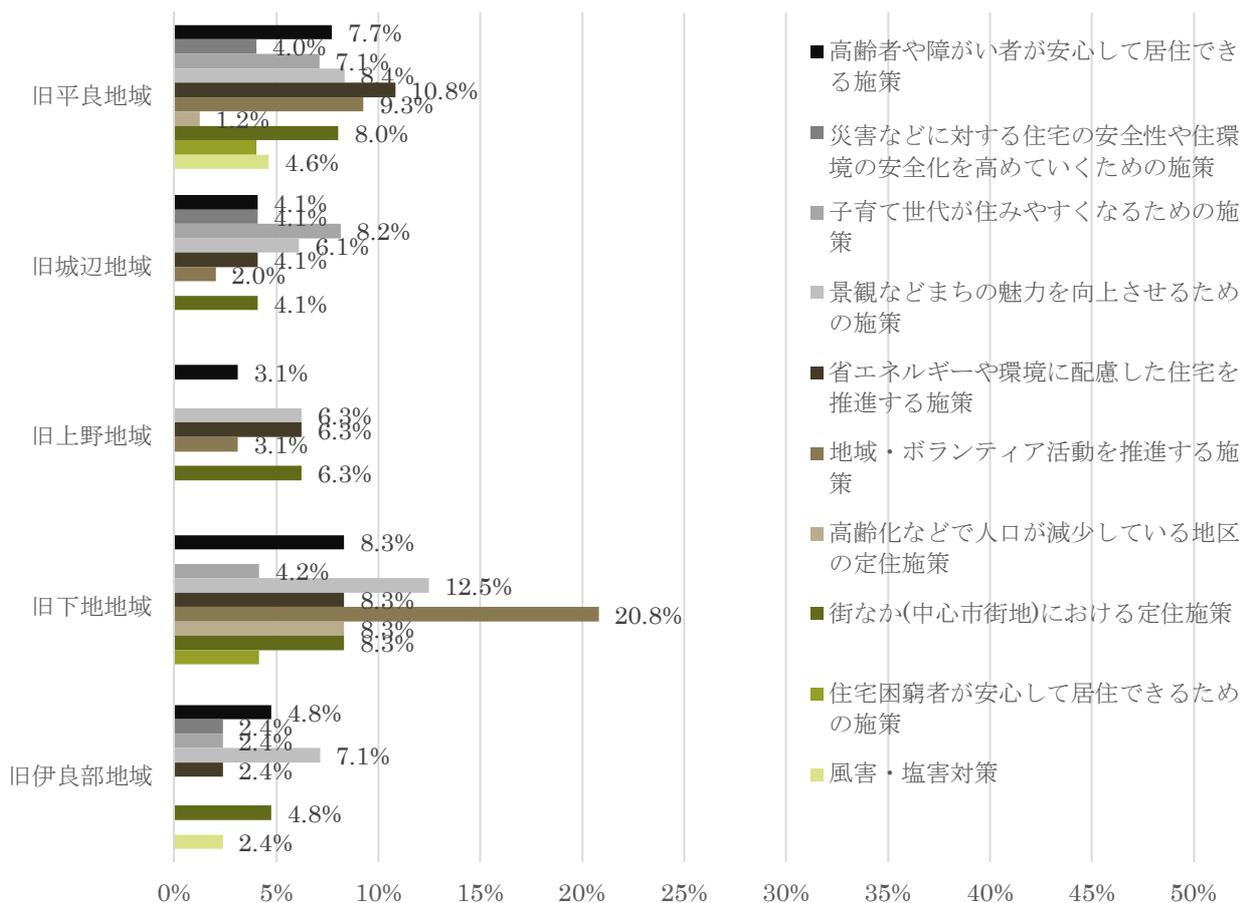
問 11：住んでいて感じるまちの魅力



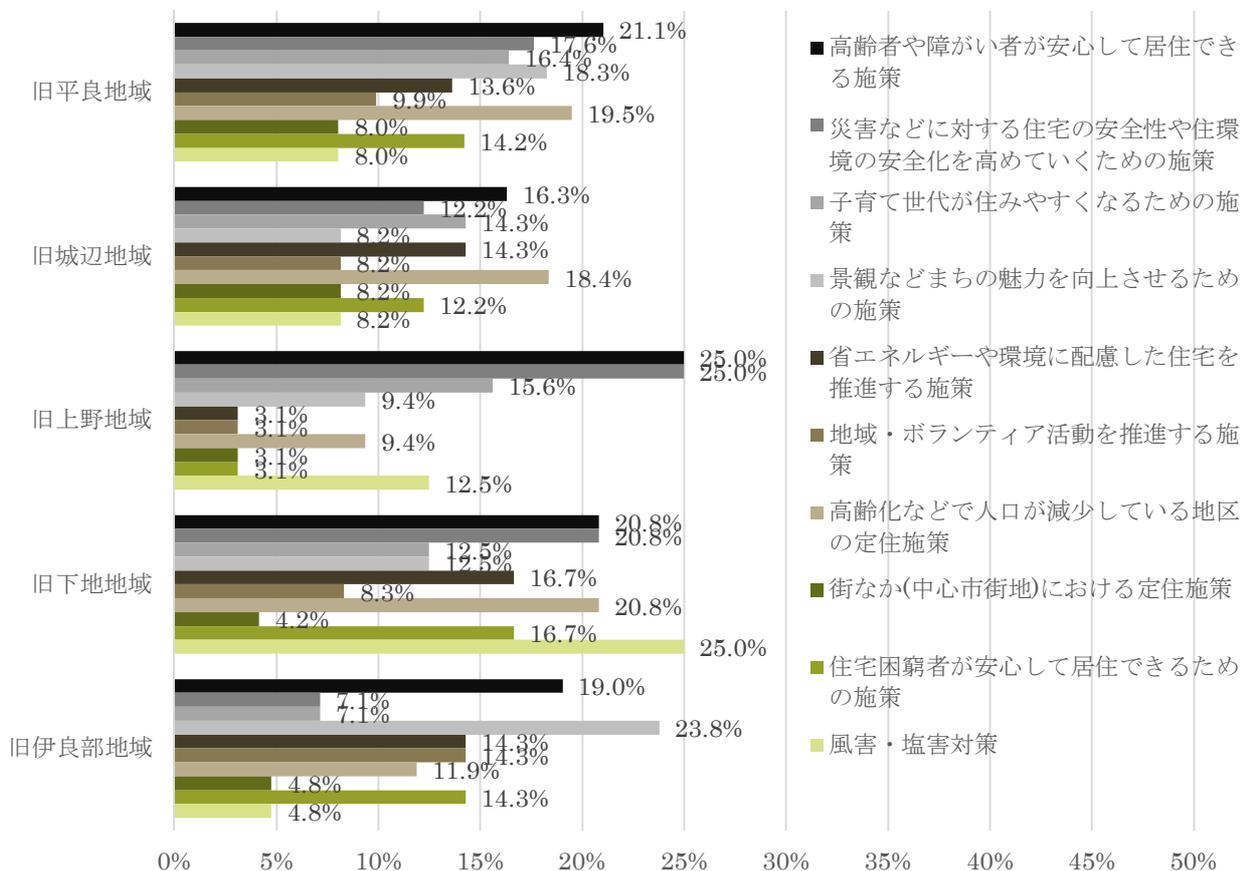
⑥地区別の住宅施策の評価について

地区名	住宅施策への評価	考 察
旧平良地区	○「省エネルギーや環境」への満足度は高い。 ○「高齢者や障がい者が安心して居住できる施策」に力を入れるべき。	都市部を含む旧平良地区でも高齢者や障がい者が安心して居住できる施策への支持が高い。 省エネルギーや環境施策への評価は、市の「エコアイランド」政策のイメージ浸透と推測される。
旧城辺地区	○「子育て世代が住みやすくなる施策」への満足度が比較的高い。 ○「高齢者や障がい者が安心して居住できる施策」、「高齢化など人口が減少している地区への定住施策」に力を入れるべき。	農村部が中心となる旧城辺地区では、少子高齢化に対応した住宅政策を望む回答が多い。
旧下地地区	○「地域・ボランティア活動推進」が際立って多い。 ○「風害・塩害対策」に対する不満が高い。 ○「高齢化など人口が減少している地区への定住施策」に力を入れるべき。	地区特有の住民組織の活動を反映していると推測される。 風害・塩害対策への回答は、地形的に標高が低い居住地区(特に与那覇、上地、下地、川満など沿岸部)が多いことに起因すると思われる。
旧上野地区	○「子育て世代が住みやすくなる施策」に力を入れるべきだという回答が群を抜いて高い。 ○「高齢者や障がい者が安心して居住できる施策」並びに「災害などに対する住宅の安全化を高めるための施策」が不十分。	少子高齢化に伴う子育て世代への支援と、防災への安全化につながる住宅政策への回答が目立つ。
旧伊良部地区	○「景観などまちの魅力を向上させるための施策」への関心が高いことが目立つ。 ○「子育て世代が住みやすくなる施策」に力を入れるべきだという回答が多い。 ○「高齢者や障がい者が安心して居住できる施策」に力を入れるべき。 ○「高齢化など人口が減少している地区への定住施策」に力を入れるべき。	景観や街の魅力向上への関心が高いのは、伊良部大橋開通後多くの観光客が流入している地区であることと関連性が強いと考えられる。 また、少子高齢化に対応した住宅施策への回答も多い。

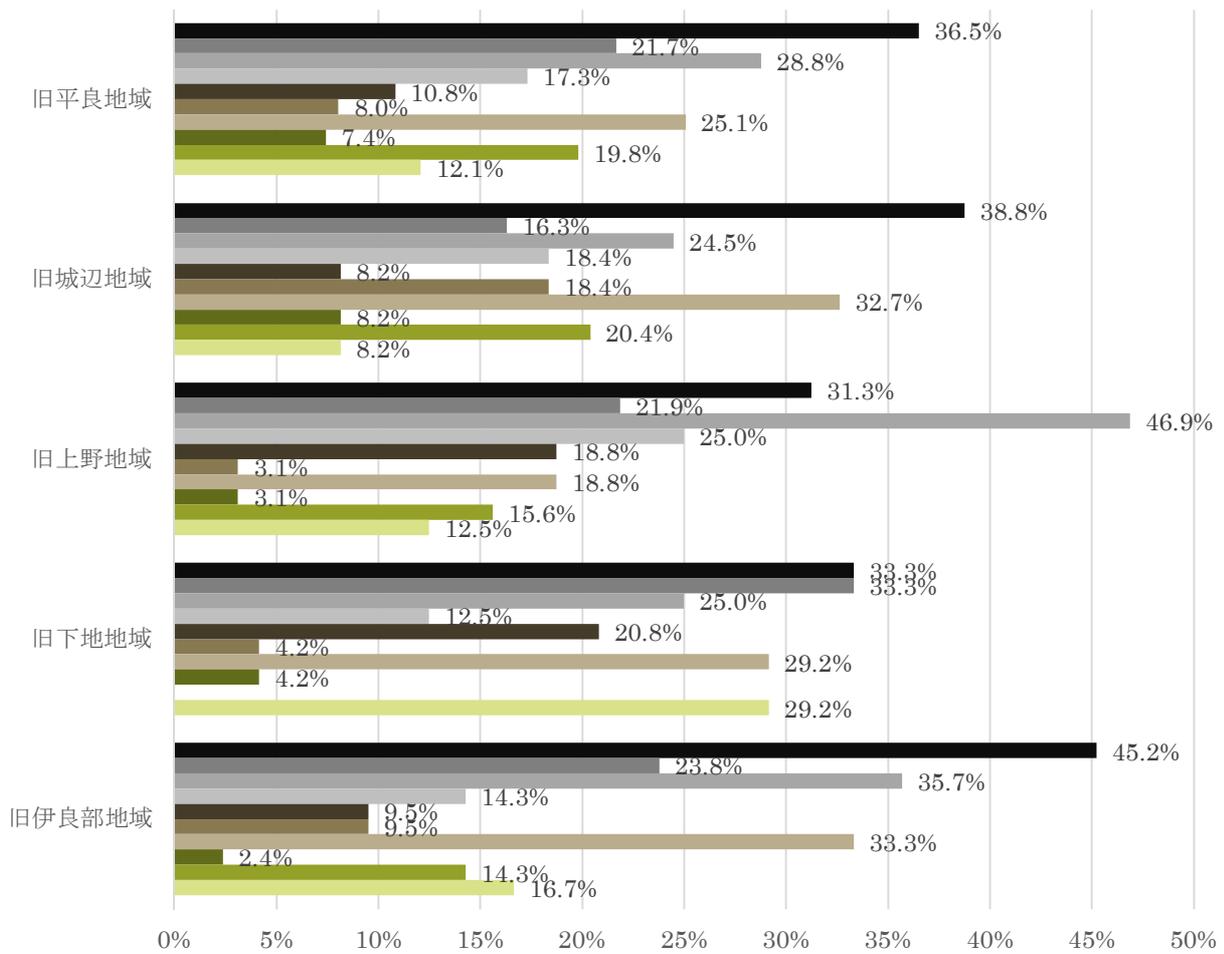
住宅・住環境に関する行政の取組について【満足している取組み】



住宅・住環境に関する行政の取組について【不十分だと思う取組み】



住宅・住環境に関する行政の取組について【特に力を入れるべきだと思う取組み】



⑦自由意見

問 13：住みよいまちづくりに向けた意見・提案など

◆住宅問題・空家問題

- ・空家（空敷地）・団地の活用（特に高齢化などで人口が減少している城辺地区など）
- ・空家の活用の障壁となる仏壇の問題に対するルール作りが必要
- ・移住者が住みやすいように物件紹介などの制度が必要
- ・母子家庭世帯への配慮
- ・家賃の低兼化
- ・公営団地の供給

◆ゴミ問題・まちの美化

- ・町や海岸へのゴミのポイ捨て・放置への対策
- ・ゴミ分別など市民のモラル改善
- ・観光地やビーチのトイレやシャワーが汚い

◆道路・交通環境の改善

- ・観光客に対応した道路標識の設置
- ・電柱の地中化
- ・車道の路面状態の改善と歩きやすい歩道づくり（歩道の街路樹や雑草の整備など）
- ・外灯の設置など高齢者、障がい者、子ども達の安全な歩行環境の実現
- ・市内の駐車場不足

◆自然環境・緑化

- ・花など緑化の推進
- ・手入れ不足により雑草が伸びた公園の管理

◆生活の安心・安全、防犯防災

- ・防犯のための防犯カメラや街路灯の設置
- ・災害から身を守る場所づくり

◆子どもたちの安心・安全、子育て

- ・高齢者や子どもが安心して遊べるまちづくり（公園・遊び場など）
- ・通学路の整備
- ・待機児童への対策
- ・子育て世代に対応した家賃の安い住宅整備

◆高齢者の暮らし

- ・高齢者のための遊び場やふれあいの機会の増加（公民館におけるスポーツ関連事業など）
- ・単身高齢者が入居できる市営住宅の供給

◆路線バス・公共交通

- ・買い物などに公共交通で行けるような、だれでも暮らしやすいまちづくり
- ・タクシー代の支援などの施策

◆生活インフラ

- ・上下水道の整備によるきれいな水の供給
- ・下水道の掃除
- ・旧平良市と郊外の平等なインフラ整備

◆島の将来に向けて

- ・大学や専門学校の誘致、若者が集まる仕組みづくり（教育環境の整備）
- ・島内外の人がうまく付き合い、島の歴史・文化を守りながらの生活の継続
- ・豊かな島の自然を守る
- ・平良市街と郊外の均衡ある発展
- ・コンパクトシティ化
- ・観光客へのルール徹底と移住者の住民票移動の徹底

